

各関係機関の長 殿

国立感染症研究所長
(公印省略)

研究職員の公募について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、この度当所では下記のとおり研究職員を募集することになりました。
つきましては、貴下職員にご周知下さるようお願い申し上げます。

記

1. 職名等

職名	業務内容	応募資格
薬剤耐性研究センター 第二室長 (募集人数1名)	薬剤耐性研究センターは、薬剤耐性病原体に起因する感染症（ウイルスに係るものを除く。）に関し、次に掲げる事務をつかさどる。 1. 病原及び病因の検索並びに予防及び治療の方法の研究（これらに関するレファレンス業務を含む。）及び講習を行うこと。 2. 抗菌性物質及びその製剤（抗生物質医薬品に限る。）の生物学的検査及びこれらの医薬品の生物学的検査に必要な標準品の製造並びにこれらに必要な科学的調査及び研究を行うこと。 第二室では薬剤耐性菌に起因する感染症に係るもの並びに医療関連感染症の調査研究並びにこれに関連するレファレンス業務及び講習に関することを司る。 うち採用予定官職では次の業務を行う。 (1) 厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業の運営と改善・改良 (2) 海外版厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業の展開 (3) 厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業データを用いた調査研究 (4) 厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業講習会の開催 (5) 薬剤耐性菌感染症サーベイランスに関するWHO 及び外国機関との共同研究の推進	1. 感染症学、薬剤耐性学に関する知識と研究実績を有すること 2. 薬剤耐性菌サーベイランスの経験を有すること 3. 情報学の疫学研究への活用ができること 4. 指導性を発揮し、室をまとめる統率力と協調性を有すること 5. 国際協力に対応しうる資質を有すること 6. 大学院博士課程を修了後4年以上の学位（博士）取得者、若しくは同等と認められる者 ※上記の1. から6. を満たすもの

2. 提出書類

(1) 履歴書（市販用紙使用、高等学校卒業以降を記入し、写真を貼付。）

(2) 主要研究概要（1,200字以内）

(3) 応募職の業務内容に関する抱負（1,000字以内）

(4) 業績目録（A4版縦横書き、別紙参照）

※ コレスポンディングオーサー（責任著者）の論文には必ず各題名の書き出しに（責）と記入すること。

(5) 論文別刷（3編以上）

(6) 学位記（写し）又は学位を証明するもの（A4に縮小すること）

3. 書類提出先及び提出方法

〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所 所長 脇田 隆子

※ 応募書類の封筒に、「薬剤耐性研究センター第二室長 応募」と朱書きの上、所長あて親展として書留にて郵送してください。なお、提出された書類は返却いたしません。

4. 応募締切日 平成30年12月11日（火）必着

5. 採用予定日 平成31年4月1日（予定）

6. 勤務地 国立感染症研究所ハンセン病研究センター 東京都東村山市青葉町4-2-1

7. 処遇

(1) 給与は、「一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）」等に基づき、学歴・経歴等を勘案して決定します。

(2) 1週間当たりの勤務時間は、38時間45分（週休2日制）です。

(3) 年20日の年次休暇（採用の年は、採用の時期により20日より少ない日数となります。）のほか、特別休暇（夏季・結婚・忌引・ボランティア等）、病気休暇の制度が整備されています。

8. 選考採用試験スケジュール

(1) 第1次審査（書類選考） 平成30年12月下旬（予定）

(2) 第2次審査（面接試験） 平成31年1月中旬（予定）

※ 第1次審査（書類選考）を通過された方には、当方から第2次審査（面接試験）に関する連絡をいたします。

9. 問い合わせ先

国立感染症研究所 総務部総務課人事係 亀田

03-4582-2625 E-mail:jinji@nih.go.jp

10. 国立感染症研究所ホームページURL

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

業績目録

氏名 _____

1. 著書

2. 学術論文（学会誌発表等）

（1）欧文

（2）邦文

3. 学会発表（講演・発表等）

4. 外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近5年）

（記入上の注意事項（共通））

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名（発表雑誌名）の順で記載し、それぞれを改行すること。

2. 年代の新しいものから順に記載すること。

3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。

（例：Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002）

4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に（ ）書で和訳を記載すること。

5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。（単独は（単）、筆頭は（筆）、その他は（他））

※コレスポンディングオーサー（責任著者）の論文には、必ず各題名の書き出しに（責）と記入すること。

6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。

7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

①労働太郎、厚生太郎

(他炎症の組織病態

〇〇社, PP. 67-87, 1989)

2. 学術論文

(1) 欧文

①Taro kousei, Jiro Kousei, Saburou Kousei, Tarou Roudou, Jiro Roudou, Saburou Roudou

(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA, 2002

(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)

Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎

(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004

(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)

Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

①厚生太郎

(単) ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について

第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

①厚生労働省科学研究費補助金、(課題名) 〇〇〇〇〇〇

期間: 平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年

②科学研究費補助金、(課題名) □□□□□

期間: 平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年